

大学入試改革について！！

期末テストお疲れ様でした。よく頑張りましたね。皆さんの努力している様子を見て、私たち職員も元気ももらっていました。さて、ニュース等でご存じだと思いますが、現高校1年生から大学入試が変わっていきます。宮崎学園中学校でも、6年後を見据えて、文章読解力講座などをスタートさせ、入試改革の対応を考えているところです。今回の通信から少しずつ大学入試改革について触れていきたいと思います。

現在のセンター試験からの大きな変更として、これまでのセンター試験になかった記述式問題の導入と、英語では4技能（読む・聞く・話す・書く）を評価することが挙げられます。

また、新テストの導入にあたっては、「知識・技能」だけでなく、大学入学段階で求められる「思考力・判断力・表現力」を一層重視するという考えがベースにあります。このため、現在のセンター試験でも実施されているマークシート式問題も見直しが検討されています。2017年11月に実施された共通テストの試行調査（プレテスト）の問題では、マークシート問題にも作問や出題形式にこれまでとは違った傾向が見られました。複数の情報（文章・図・資料）を組み合わせて思考・判断させる問題や高校での学習場面を想定した設定の問題が出題されています。出題形式も、当てはまる選択肢をすべて選択する問題、解なしの選択肢を解答させる問題などがあり、こうした問題の中には正答率が1割台にとどまったものも見られました。

～河合塾大学入試情報サイトより～

なぜ大学入試改革は必要なのか！！

このことに関しては、色々な意見があると思いますが、外山滋比古先生が書かれた「思考の整理学」の中に、次のような文章があります。

人間には、グライダー能力と飛行機能力とがある。受動的に知識を得るのが前者、自分ものごとを発明、発見するのが後者である。両者はひとりの人の中にも同居している。グライダー能力をまったく欠いては、基本的知識すら習得できない。何も知らないで、独力で飛ぼうとすれば、どんな事故になるかわからない。

しかし、現実には、グライダー能力が圧倒的で、飛行機能力はまるでなし、という「優秀な」人間がたくさんいることもたしかで、しかも、そういう人も「翔べる」という評価を受けているのである。

学校はグライダー人間をつくるには適しているが、飛行機人間を育てる努力はほんのすこししかしていない。学校教育が整備されてきたということは、ますますグライダー人間をふやす結果になった。お互いに似たようなグライダー人間になると、グライダーの欠点を忘れてしまう。知的、知的と言っていれば、翔んでいるように錯覚する。

この文章は、これまでの日本の教育の課題を分かりやすく説明していると思います。

宮崎学園中学校・高等学校は、「グライダー兼飛行機」のような生徒を育てたいと考えています。皆さんと一緒に取り組みながら、将来に生かせる力を育てていきましょう。